



## 馬耳東風

頭の柔軟性を保てれば高齢者も残された人生を楽しむことができる。誰もが思っている。しかし、思考を司る前頭葉機能の低下には「病識」の欠如があり、自分の衰え、病気であるという感覚を持ってない場合が多いという厄介な問題がある。思考の老化を防ぐためには前頭葉機能の「感情の制御力」、「思考の柔軟性」それに「創造力」の3機能を衰えさせないように生活することが重要といわれる。そんなことを考えていたら、「最近、新聞を読む時間が十分あるのに、読みたい記事が少なくなった」とふと頭に浮かんだ。これは自身の前頭葉機能が低下してきたためかと不安がよぎる。一方で、日々、雑用に追われ多忙を決め込んでいる自分自身、好奇心が衰えたり、感性が鈍くなったとは思いたくない。仮に前頭葉機能が正常のレベルだとすると、編集者には失礼かもしれないが最近、新聞記事の質が低下しているということではなからうか。

現在、いわゆる全国紙といわれる5社の新聞の発行部数は以前に比較すると減少しているようだが、これはインターネット（IN）などの電子媒体を介した情報伝達が普及したことによるものであろう。確かにINを利用すれば情報を即座に知ることができ便利であるが、その内容については浅薄で玉石混交であり、情報の信頼性に関する疑念を払拭し切れない。その点、新聞は責任の所在が明確で、深く掘り下げた内容を伝達することも可能で、マスコミの分野では最も高い信頼性を有する情報媒体とされている。新聞に求められるのは、情報を早く、正確に伝えることであり同時に、その背景は何か、それが政治・経済、社会にどのような影響を及ぼすかという

解説記事を充実させることであろう。日常的には直接関係がないと思われる海外における政治・経済の動向などの報道も不可欠な項目であり、新聞の持つ重要な使命である。先日、今の紙面（朝日、朝刊）を構成する内容はどのようなものか4月1日から7日までの1週間分の全紙面についてざっと集計してみた。その結果、曜日による変動はあるが、国内の政治・経済17%、国際情勢3%、関連する解説・論説6%、さらに社会・スポーツ関係10%を加え、報道関係記事がこの1週間の平均で全紙面の約36%であった。それに生活・文化などに関する情報記事が約20%で、残りの約44%が広告であった。新聞の中核となる政治・経済・国際情勢に関する記事が合わせて約20%というのは寂しい限りで、報道記事とこれらに関する解説、論説もさらに充実してほしいものだ。広告については、多い日には半分以上を占め、これほど多いとは思っていなかった。特に書籍、薬品類の広告が多く、合わせて広告全体の1/3を占めた。

新聞は世論の動向に最も大きな影響を及ぼすもので、読者に対して正確で極端な偏見のない情報を発信する義務と責任を有していると思っている。最近、新聞やテレビの報道内容に異議を唱えた大臣がいたが、このようなことがおこるのは、都合の悪い情報を隠匿し、主権者を騙し横車を押し通そうとする時であり、これによって疑念がいっそう深まり、信頼性を失うことは古今東西を問わず歴史が証明していることである。「パナマ文書」が世界に大きな衝撃を与えている。憤りを越して情けなさを感じる。「政治屋はしよせん、同じ穴の貉」か、前頭葉に十分酸素を供給して理性を働かせてほしいものだ。

（青）